日吉台新聞
HIYOSHIDAI
発行
日吉台学区
まちづくりカンパニー
編集責任者
野々口　義信

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

学区ホームページ

学区民大運動会４年ぶり開催へ

コロナ禍前の競技種目を実施

10月8日、日吉台小グラウンド

令和５年度第39回学区民大運動会の第１回実行委員会が８月６日、日吉台市民センターで開かれた。新型コロナ感染症の流行で４年ぶりの開催となる今年の学区民大運動会について実行委は、10月８日午前９時、日吉台小学校で開催、コロナ前と同じ競技種目を実施することを決めた。また、開催の可否は前日の７日午後３時に判断し雨天の場合は順延しない。

初の実行委では、各丁自治会長、スポーツ、体育委員、学区各種団体、スポーツ振興会、自治連合会の役割分担を確認、実施する競技種目を協議した。昨年の運動会は、競技種目削減、午前中の開催というコロナ対策バージョンで計画したが、今年度は従前どおりのプログラムで実施することを決定した。

従来の大会では、運営費に充当するため学区内外から協賛金を募集したが、協賛金募集事務に各自治会、自治連合会役員の負担が大きいとして自治連合会定例役員会で、協賛金の募集を中止、不足財源対策として自治連合会から補填することを決めている。

実行委で決定した競技種目について各丁回覧で出場選手の募集を行う。

運動会競技の練習日は10月１日午後３時から日吉台小グラウンドで。雨天の場合は、同小体育館で実施する。

学区要望提出

日吉台学区自治連合会（野々口義信会長）は、令和５年度の学区要望をまとめ、８月上旬大津市など関係行政機関に提出した。

学区自治連合会としての要望提出は２件。１点目は、日吉台住宅地の日吉台診療所と旧１６１号線沿いの湖西浄化センター前を結ぶ市道について、。市道上部から竹や雑木が垂れ下がり、事故防止策を求めている。２点目は、日吉台住宅地から雄琴方面へ向かう抜け道道路の４丁目東地区の３差路。市道際の立木が崖下側に倒木、電柱も傾き市道に亀裂が入り、土砂崩れの恐れも。改善を求め調査を要望している。

学区自治連合会の要望ほか、各自治会も同様の要望を提出をしており、紙面の都合上、各自治会の要望は10月紙面で紹介する。

竹や雑木が垂れ、通行に支障

日吉台団地と県道５５８号線を結ぶ市道幹２１１３号線は、南側木の岡町側の切通し上の竹や雑木が道路を大きく覆って垂れ下がり、通行への支障、枯れたり折れたりした竹の落下が懸念される状態である**＝写真上**。特に降雨時、降雪時には写真の様に状況が悪化する。大津市として地権者を指導し適切な管理をさせると同時に、市としても市道管理者として竹の垂下や落下による事故防止策を講じていただきたい。

崩れる兆候？原因調査を

抜け道三差路、立木、電柱傾く

千野３丁目から苗鹿地区に向かう市道幹２０１０号線と日吉台４丁目の市道中０１０１号線の３差路地点。市道ぎわの立木が崖下に倒木しているうえ市道際の電柱も傾いている**＝写真下**。また現場市道路面は、崖と平行して亀裂が入っていることも確認できる。数年前までは、立木はまっすぐ上に向いて立っており、現場道路の亀裂も今ほど大きくなかった。

この３差路は、日吉台学区から雄琴方面への抜け道道路で祝祭日になる湖西道路の渋滞を避ける車の往来が多いところ。現地は、雄琴地区地すべり防止区域に指定されている一角。数年前に道路下側で地すべり防止対策工事が行われており、地すべりによる現象なのか、土砂崩れによるものか早急な原因調査と対策を求める。

マナ☆ビバ☆にぎわう児童ら歓声

地域の人からペットボトルの水鉄砲づくりを学ぶ子どもたち（上）と水鉄砲で水のかけあいで大喜び（下）

真夏の太陽がさんさんと降りそそぐ7月26日と8月2日、学区社会福祉協議会の支援を受ける日吉台小コミュニティスクール事業、「寺子屋プロジェクト☆マナ☆ビバ」が、4年ぶりに日吉台小学校で開催された。

参加児童は、1年生から6年生まで合わせて31人。同小理科室に集合した子どもたちは、午前9時から10時までの1時間、夏休みの宿題に取り組み、10時からは、水鉄砲づくりや木工、折り紙など、思い思いの遊びの時間を楽しんだ。

勉強の時間は、全員が、黙々と夏休みのドリルやプリントに向き合った。友達同士や低学年に笑顔で教え合う姿や、丸つけをしてあげるほほえましい姿も多く見られた。

遊びの時間、水鉄砲コーナーでは、手作りのペットボトルで、的当て競争をし大盛り上がり。最後には水鉄砲で水の掛け合いになりずぶぬれになった子も。35度を超える暑さの中、中庭の藤棚の木陰は、笑顔と歓声に包まれていた。

また、木工コーナーでは地域の方から提供されたきれいな薄い木片を彫刻刀を使ってお皿の形にくぼませ、器用に絵を描いて仕上げていた。没頭して取り組んだ作品はどれも力作揃いで子どもたちは満足げな表情だった。

折り紙コーナーでは、王冠を折ってからキラキラ光るシールで飾り付けをしたり、スリンキーと呼ばれる作品に挑戦したりしていた。根気のいる作業だったためスタッフから「毎日がんばったら、夏休みの終わりころには完成するかな」と伝えられていたが、1週間後に、「家で続きを折って、完成させたよ」と報告をしてくれる子もいた。次回は、冬休みに開催予定している。

児童クラブを友愛訪問

老ク連女性部

学区老人クラブ連合会女性部（仲野茂子部長）らのメンバーが8月3日、日吉台小に隣接する市立日吉台児童クラブを訪問、老ク連会員手製のスマートボール4台を持参、子どもたちとゲームを楽しんだ。

この事業は、学区老人クラブ連合会女性部が行う友愛訪問と名付けるボランティア。この日は、仲野部長ほか、老ク連加盟の老人クラブ会長らが、3丁目東在住の吹田照義さんお手製のスマートボール機で、児童クラブに通う22人の子どもたちとスマートボールで遊び、得点を競い合った。参加した子どもたちは、獲得できる得点やマイナス点に一喜一憂、ゲーム賞品の文房具やキャラクター製品などをもらい大喜びしていた。**（写真は、児童クラブでゲームをする子どもたち）**

子どもたちとスマートボール

夏休みラジオ体操

延べ１２９４人が参加

新型コロナ禍で中断していた日吉台学区夏の恒例、ラジオ体操は、7月21日から8月10日までの15日間、「日吉台小学校グラウンド」で行われ、延べ１２９４人の子どもたちや学区民が参加、期間中参加者らは、朝の新鮮な空気を体いっぱい吸い込み、おなじみのラジオ体操の伴奏に合わせ体を動かし心地よい汗をながした。

このラジオ体操は、学区民会議の日吉台夢・未来事業推進委員会が、コロナ禍前は、夏休みの恒例行事年て行っていたもの。新型コロナ禍で中止が続いていたが、今年は4年ぶりの開催となった。

滋賀県内では、２０２５年に第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会が開催されることになっており、ラジオ体操が行われた日吉台小グラウンドにはラジオ体操開催中、「国スポ・障スポ」ＰＲの「のぼり」掲揚とイメージソング「シャイン！！」を流し大会開催の盛り上げに一役かっていた。

（写真は、国スポ、障スポ開催ＰＲののぼりを立て、行なわれるラジオ体操）

会場で国、障スポＰＲも，